

実践報告

札幌市立屯田北中学校

(1) 研究内容

研究課題：「子どもの権利に関わる学習活動に関する研究」

ピア・サポート・プログラムを活かした豊かな人間関係づくり
～ピア・サポート・プログラムの定着をめざして～

- 基本的なコミュニケーション能力を高めながら、一人一人の自己肯定感を高めるとともに、他者を思いやり尊重する心を育てる。これにより、豊かな人間関係の基礎となる「支えあう温かな関係性」が構築され、さらに、身に付けた力を主体的に生活や学習へと活かそうとする心情や態度を育てることができると考える。

(2) 実践の内容

【実践①】子どもの権利に関わる学習カリキュラムの構築

○ねらい

- ・ 自他の権利やお互いを尊重したコミュニケーションを体験的に学ぶピア・サポート・トレーニングを全学年で年間を通して計画的に実施する。
- ・ 学年の実態や発達段階を考慮しながら、3年間を見通したカリキュラムを工夫する。
- ・ 教育課程上の位置付けについて、他領域との関連を含め、次年度に向け検討する。
- ・ 道徳の教材とピア・サポート・トレーニングを組み合わせ、導入・展開を工夫する。
- ・ 子どもの権利や人権に関わる学習とピア・サポート・トレーニングを効果的に組み合わせる。

○学習内容

ピア・サポートを活かした豊かな人間関係づくり」年間実施内容

学期	月	1年	2年	3年	
1	4	オリエンテーション 「ピア・サポートについて」「子どもの権利について」「人権について」			
	4	トレーニング①「あいさつで名刺交換」	トレーニング①「あいさつで座席表づくり」	トレーニング①「あいさつで名刺交換」	学級開き
	6	トレーニング②「話の上手な聴き方」 ～質問しよう	トレーニング②「話の上手な聴き方」 ～気持ちを读む		
	7	トレーニング③ 「ちくちく言葉とにこにこ言葉」	トレーニング③「うわさ話のわな」	トレーニング②「うわさ話のわな」	トラブルの増える時期
2	8	トレーニング④「プラスのストローク」～夏休みの思い出			夏休み後
	11	トレーニング⑤「すごろくトーク」～新しい班の仲間を知り合う、		トレーニング④「すごろくトーク」 ～面接バージョン	後期の班決定後
	10 ～ 12	トレーニング⑥ 「友情を育てる話の聴き方」	トレーニング⑥ 「どんな人に相談する？」 「友達との相談にのってみよう」		トラブルの増える時期
3	1	トレーニング⑦「プラスのストローク」～冬休みの思い出 1年～聞き方話し方 2年～励まし名人になろう		トレーニング⑤ 「受験期の不安と緊張に克つ！」 「友達との相談にのってみよう」	冬休み後
	2	トレーニング⑧ 「怒りの温度計」	トレーニング⑧ 「上手な断り方」～きちんとした自己主張		
	2	実践①「新しい仲間のために」 ～新1年生にメッセージを書く	実践①「送別の合唱をつくる」 ～送別集会に向け、リーダーシップをとり、 気持ちをひとつにして3年生を送る	実践①「別れの花束」 ～卒業に向け、学級の友人、保護者、後 輩、先生に感謝のメッセージを伝える	進級・卒業期
	3	1年の反省とプランニング			
		対人関係スキル	問題解決スキル	対立解消スキル・進路選択に関連	

- ・ 年間約9回のピア・サポート・トレーニングの実施（上記）
- ・ 「みんなで考えよう 子どもの権利！」パンフレット（札幌市子ども未来局作成）を使った道徳の授業（12月）
- ・ 総合的な学習の時間において、アイヌ文化体験（1年生）、福祉体験・障がいについての講演会（3年生）
- ・ 命と性についての講演会（1年生12月・2年生1月・3年生7月）
- ・ 実践結果を踏まえ、人権教育推進を核とした学校づくりとして、全体構造図・年間指導計画を作成した。

【実践②】コミュニケーション能力の日常生活への定着

○ねらい

- ・ 学んだ内容を活かし、日常生活での自らの行動を主体的に変えていく子どもを育成する。

○学習内容

- ・ 「統一スゴロク」（1学年協議会）、「あいさつ運動」（2学年協議会）、「ハロープロジェクト」「学校祭後のプラスのメッセージ」（生徒会）など、子どもが自主的な活動を企画し、自らの行動を改善した。
- ・ 日々の教科等の指導の中にグループ活動や学び合いを多く取り入れるなどの教科指導と上手く絡み合わせる工夫を試み、11月にすべての教科で授業公開を行った。

ハロープロジェクト



【実践③】より主体的なピア・サポート活動の展開

○ねらい

- ・ 「子どもが主体となる活動」をより活発にする。
- ・ 教育課程のあらゆる場面でピア・サポートの考え方を踏まえた活動を展開する。

○学習内容

- ・ 生徒会活動として、「新1年生に向けての学校行事紹介パネル」企画作成、3年生を送る会の子ども主導の歌練習など。
- ・ 学年末に、他学年への感謝のメッセージ、新1年生への歓迎のメッセージづくりなど。

教科指導での学び合い



【実践④】アセスメントの工夫

○ねらい

- ・ 子どもの変容を見取る。

○実施内容

学校環境適応感尺度「アセス」を全校生徒対象に実施した。また、札幌市共通指標アンケートを全学年に広げて実施、分析した。

- ・ 第1回アセスの実施（旅行的行事前）、第2回アセスの実施（学校祭終了後）
- ・ 第1回札幌市共通指標アンケート（1学期末）、第2回（3学期始め）

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 教育課程にピア・サポート・プログラムを効果的に位置付ける方策を探ってきた。全校体制で、年間を通して、計画的にピア・サポート・トレーニングを実施した3年間の取組の結果、人間関係づくり、自己肯定感や温かな学級学校風土の醸成には一定の効果がみられた。研究4年目に当たる今年、さらに学年の実態や発達段階を考慮した学習内容を工夫し、年間を通して全学年で計画的に実施することができた。
- ・ その結果、「全国学力・学習状況調査」では、自尊感情が全国・北海道と比較し高い値を示すなど、成果が現れてきている。今年度から全生徒を対象に実施した学校環境適応感尺度「アセス」において、要対人支援群にいる子どもが大変少ないこともピア・サポート・プログラムの成果と考えられる。
- ・ さらに、特別活動や各教科指導の中で活かし、様々な工夫を試みたことで、子どもの自発的な活動が引き出され互いに認め合いながら、活動する場面が増えてきている。
- ・ また、本校ではピア・サポート以外にも人権教育に関わる取組が広がってきている。

② 課題

- ・ 今後、ピア・サポートの取組を教育活動全体を通して行っていくため、指導内容や学習展開を検討し、工夫改善するとともに、全体計画などを整理しながら教育課程に位置付ける在り方を検討していくことが課題である。
- ・ 評価については、子どもの変容を見取るアセスメントの工夫（学校環境適応感尺度「アセス」の全学年全学級実施）を行ったが、継続することで、成果を分析発信するなど、更に活用を図りたい。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 現在、日本の子どもたちの自尊感情・自己肯定感が低いことが課題の一つになっている。そのような中で、本校の自尊感情が高いのは、ピア・サポート・トレーニングとピア・サポート活動の全校的な実践の成果だと考えられる。繰り返し行われる「温かな言葉がけ」「他者理解」「自己表現」などが、「自分らしさ」の肯定につながっている。また、人間関係スキルを学び、それを学校生活の場で実践することが、相手を理解し尊重する、自分を表現し受け入れられるという温かな人間関係の雰囲気もつくりだしている。更に友人から肯定的なメッセージをもらい、自分が相手に大切にされる経験をすることで、将来に渡って自分も相手を大切にしようという人権意識が育つことが期待できる。
- ・ 短時間の取組であっても、学級経営やいじめ・不登校の予防的開発的な効果が期待できると考えられることから、学級や学校の実態に合わせ、できることから取り組むことが望ましい。